

原単位の更新について

原単位の更新

○ **費用便益分析に用いる原単位**は、これまで交通センサスの改訂に合わせて更新してきたが、**物価上昇等の変化を合わせて、適切に更新**していくこととする。

■ R6年度に更新する場合の試算結果概要

[円/台・キロ]

	従前(令和2年価格)	改定後(令和6年価格)	主な変化要因
時間価値	乗用車 : 41.02 バス : 386.16 乗用車類 : 46.54 小型貨物車 : 52.94 普通貨物車 : 76.94	乗用車 : 43.75 (+6.7%) バス : 396.96 (+2.8%) 乗用車類 : 48.61 (+4.4%) 小型貨物車 : 51.97 (-1.8%) 普通貨物車 : 101.31 (+31.7%)	【主な変化要因】 ○賃金率の上昇 【車種によるばらつきの理由】 ○同乗者数の増減
走行経費	例) ■一般道(平地・35km/h) 乗用車 : 17.31 バス : 77.51 乗用車類 : 18.27 小型貨物車 : 20.44 普通貨物車 : 39.20 ■高速・地域高規格(80km/h) 乗用車 : 9.96 バス : 46.08 乗用車類 : 10.53 小型貨物車 : 15.03 普通貨物車 : 29.89	例) ■一般道(平地・35km/h) 乗用車 : 19.38 (+12%) バス : 87.04 (+12%) 乗用車類 : 20.46 (+12%) 小型貨物車 : 23.88 (+17%) 普通貨物車 : 48.62 (+24%) ■高速・地域高規格(80km/h) 乗用車 : 11.72 (+18%) バス : 54.11 (+17%) 乗用車類 : 12.40 (+18%) 小型貨物車 : 18.28 (+22%) 普通貨物車 : 37.82 (+27%)	【主な変化要因】 ○燃料費の増加 【車種・速度等によるばらつきの理由】 ○車種毎の燃費の違いにより、原単位に占める燃料費の割合が異なるため。
交通事故	例) ■一般道(非市街地・2車線) $AA_{ij} = 800 \times X_{1ij} + 310 \times X_{2ij}$ ■高速道路 $AA_{ij} = 270 \times X_{1ij}$ (AA _{ij} : 交通事故の社会的損失、 X _{1ij} : 走行台キロ、X _{2ij} : 走行台交差点箇所数)	例) ■一般道(非市街地・2車線) $AA_{ij} = 1,010 \times X_{1ij} + 340 \times X_{2ij}$ ■高速道路 $AA_{ij} = 360 \times X_{1ij}$ (AA _{ij} : 交通事故の社会的損失、 X _{1ij} : 走行台キロ、X _{2ij} : 走行台交差点箇所数)	【主な変化要因】 ○人的損失額(死亡損失)の増額改定 ○人身事故1件当たりの死者数の増加 ○交通事故件数の減少